

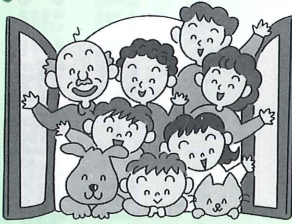
ひとりのため
みんなのため



大洲市

2008年 4月号

No.39

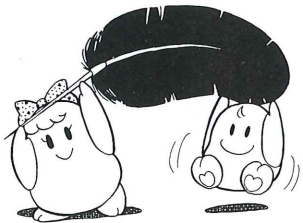


社協だより

編集・発行 社会福祉法人 大洲市社会福祉協議会 〒795-0064 大洲市東大洲270-1
TEL 0893-23-0313/FAX 0893-23-0295

平成19年度

共同募金実績報告



共同募金実績額
15,597,610円



ご協力ありがとうございました

平成19年度 共同募金種別実績表(単位:円)

地区名	戸別募金 募金額	法人募金 募金額	学校募金 募金額	街頭募金 募金額	職域募金 募金額	イベント募金 募金額	その他の募金 募金額	募金額合計 募金額
肱南	602,860	222,500					107,000	932,360
久米	357,180	167,741		300			157,000	682,221
肱北	337,010	218,500					339,000	894,510
喜多	769,630	438,157					311,000	1,518,787
平	456,930	447,000					61,000	964,930
平野	358,000	205,517	10,850				165,000	739,367
南久米	189,750	46,000	4,724				118,000	358,474
菅田	477,480	245,450	11,899				307,000	1,041,829
大川	164,100	13,000	3,020				211,000	391,120
柳沢	119,350	5,000	4,288				144,000	272,638
新谷	594,540	166,000	31,040			88,126	331,500	1,211,206
三善	151,320	68,266	5,706				165,000	390,292
八多喜	303,500	80,000	8,950				352,646	745,096
上須戒	104,260	5,000	3,227				85,000	197,487
長浜	1,140,400	447,500	116,479		4,000	30,337	1,235,263	2,973,979
肱川	429,340	135,000	63,638	34,934	115,509		195,745	974,166
河辺	191,500	210,000	0		82,000		179,931	663,431
事務局	0	30,516	72,157	191,648	311,780	17,850	21,766	645,717
計	6,747,150	3,210,598	335,978	226,882	513,289	136,313	4,486,851	15,597,610

平成19年度実績内容については、「社協だより特集号」で詳しく掲載いたします。

平成十九年度

大洲市地域福祉(ボランティア)研修会

愛媛県 人生いきいきボランティア講座

平成二十年二月十七日(日)

大洲市総合福祉センター

二月十七日、大洲市総合福祉センターにおいて、「支えあう喜び。誰もが安心して住みよい地域づくり」をテーマに大洲市地域福祉(ボランティア)研修会を開催しました。今年度は、団塊世代の方々を新たに加え、愛媛県事業人生いきいきボランティア講座との合同開催という運びとなりました。

市内を中心に約二二〇名の方々に参加いただき、まず、ボランティア概論として、愛媛県県民環境部管理局県民活動推進課NPO・ボランティア係主任佐々木 一光氏から、愛媛県が取り組んでいるボランティア活動推進の取り組みについて紹介が行われました。

愛媛県では、『愛と心のネットワークづくり』を合い言葉に、県民同志の助け合い・支え合いの活動の輪を広げる活動の推進を行っており、平成十六年度から、県民のみならず、気軽にボランティアの相談ができる

ように各市町にボランティア窓口を設置しています。

相談窓口への相談件数については年々増加しており、平成十七年度には、月平均二百六十六件の問い合わせがあったものが、平成十九年度(四月〜九月)の月平均では、約二五倍の六百七十八件の問い合わせとなっております。



また、幅広くボランティア情報の発信をするために、『愛媛ボランティアネットワーク』というインターネット上のホームページを通じてボランティアの募集情報紹介・活動紹介・イベント情報発信などを行っています。ボランティアをしたい・して欲しい個人・団体・施設などが登録され閲覧が可

能となっております。

平成十九年十二月現在で、約二千二百件登録されており、さらに、平成十九年八月から、特技や趣味を活かしてボランティアをしたい人や団体を登録し、ボランティアをしてもらいたい人や団体に紹介する『二芸ボランティア』という制度を始め、現在は、約四十件登録されています。

その他にも、夏休みと冬休みの期間を活用し、ボランティアを積極的に推進する『サマーボランティア・キャンペーン』、『ウインターボランティア・キャンペーン』活動の推進に取り組んでいます。



このキャンペーン参加者も年々増加傾向にあり、平成十七年度延べ参加者数が、約一万七千人(夏のみ)であったものが、平成十九年度延べ参加者数は、約四万二千人に増加して、愛媛県民のボランティア意識が向上しているのではないかとの説

戦後の日本は、高度成長期を経て成熟した社会を構築していたが、その過程で社会の仕組みも変わり、以前は、地域社会で暮らすためのルール『慣習』があり、生産活動や社会活動に対して共同生活を行う上で重要となる自助・互助・共助・公助などの知恵があったが、現在の都市型社会においては、他人とのかかわりを避けて暮らすことが多くなっています。ハンディキャップを持たれている人たちの社会参加が顕著になってきているなどの共同生活の仕組みの変化が見られ、また、各自自治体

財政難に陥り社会生活を維持するた



前田 眞 先生

めのシステムが大きく変わり、公的サービスを維持していくことが困難な状況になりつつあり、個人の思考も多様化して、一律的な行政サービスでの対応が難しい状況になってきています。

従って、これからの社会を支えるためには、市民参加によるまちづくり、市民や住民と行政が協働してまちづくりを行う必要があるということになります。

そこで注目を集めている存在が、団塊の世代ということになります。

団塊の世代とは、昭和二十二年（二十四年）に生まれた方で、全国で約八百万人いると言われています。大洲市では、約四千三百名の方がいらっしゃると思います。これは大洲人口の約八・四パーセントを占めていることとなります。

特徴としては、人口規模が大きく、強い競争心を持つ一方、平等に対して強い意識を持っている。また、

長男が家を継ぎ、親の世話をし、先祖の墓を守るといった意識を持っている方が多い。しかし、その反面、自



分の子供たちに対しては、家を継ぐことを求めない。など世代の特徴について説明をしていただきました。

そして、今後、三年間の間に多くの団塊の世代の方が退職することにより、労働人口の不足、経験豊かなベテラン職員の不足、知恵や技能の継承が難しくなるなど社会問題化しています。

団塊の世代の課題としては、平均寿命が、八十歳を超えてきている時代に定年退職後の人生をどのように過ごすかということがあげられます。この課題を解決するために地域の中で活動を行うことができるような地域の拠点を作る必要があるということとなります。

団塊の世代の方が、今後、地域にデビューするためのコツとして、

① 「できること」より「したいこと」を探そう。

② 地域には、部長も課長もない。地域は、横のつながり。対等・平等の友達をつくらう。

③ 講座やセミナーなどに参加し同志に出会うチャンスを作ろう。

④ 肩の力を抜き、多様性を認めながら活動しよう。

⑤ 常識は一つじゃない。効率、スピード優先の企業理論では、地域は動かない。

以上のような五つのポイントを挙げ説明していただきました。

そして、お互いに支えあう地域づくりを実現するためには、

① 地域にどのようなものがあり、だれがどこに住んでいて何を求めているのかなどを確認し、物理的・人的拠点をつくる必要がある。

② さまざまな情報を気軽に総合的に相談できる機関が必要。

③ どこに住んでいて、いざという時に誰が支援をするのかを情報発信する必要がある。

④ 地域課題を解決するためには、世代や分野を超えて交流することが重要。

⑤ 既存の地域組織（地区社協・老人クラブなど）や子育てグループなど自然発生的なグループとの連携が必要。

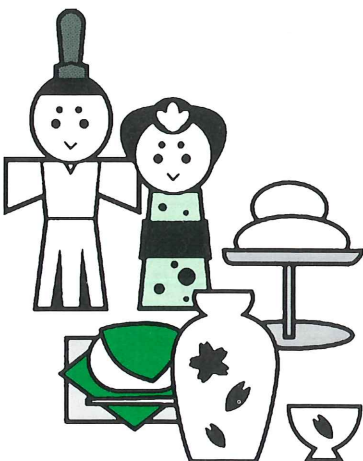
⑥ 公的サービスとインフォーマル（非公式）サービスとの仲介を行う人材が必要。

⑦ 地域住民が、どのような生活をしたのかというイメージを共有して活動することが必要。

という七つのポイントを説明していただきました。

団塊の世代の方々がいかに地域社会で活躍していただくか、また、ボランティアと行政との協働によるまちづくりを進めるために重要となるポイントなどについて非常に熱心に分かりやすくお話いただきました。

参加していただいた方々からも非常に参考になる貴重なお話を聞くことができたという意見が聞かれ、今後、大洲市の地域福祉活動がますます推進していくのではないかと感じる研修会となりました。



まごころのおくりもの

一月二十一日

二月二十日まで (敬称略)

金銭の部

(一般分)

橋本 ゆかり 徳 森

大洲市仏教会

中央分会 五 郎

大野 義久 若 宮

植田 静雄 徳 森

村上 玲子 南久米

(指定分)

《肱南地区社協へ》

岩野 安行 西大洲

《八多喜地区社協へ》

松岡 強 八多喜

立花 ヤエ子 八多喜

《平野地区社協へ》

平野商工会 平 野

《菅田地区社協へ》

浦野 公子 菅 田

福田 トミ子 菅 田

《大洲幼稚園へ》

愛媛県立大洲高等学校

家庭クラブ 大 洲

《とみす寮へ》

愛媛県立大洲高等学校

家庭クラブ 大 洲

《久米地区社協へ》

鎌田 実 阿 蔵

《河辺地区社協へ》

請田 竹男 河 辺

《新谷地区社協へ》

堀井 サワエ 新 谷

《肱川地区社協へ》

徳本 寛光 肱 川

《三善地区社協へ》

窪田 亀一 三 善

あたたかい善意をありがとうございます。ありがとうございました。感謝をこめて掲載させていただきます。

社協だより

俳句ひろば

ストレスをまた拾っては冬籠

池田 むさし

評 ストレスとは(医)では、外部刺激が負担として動くとき心身に生ずる機能変化とあります。そんな恐ろしいものを拾ってまで冬を籠もることありません。視点を変えれば明るいものも見えて来ます。

わが心返す山彦春を待つ

高藤 豊子

評 声に出した思いが正直に返ってくる山彦。「春を待つ」に、明日への希望が伝わってきます。

枝枝の天を指しぬる冬木立

鳥生 順二

評 葉が落ちて枝ばかりとなった冬木の立ち並ぶさまは寒々としています。しかし枝枝は天を指している。と見た作者は、もう枝の先は芽吹いているのだと感じているのです。

毛糸編むひとめひとめに思ひこめ

兵頭 美恵子

評 どのような思いをこめて編んでいるのでしょうか。もしかして大切な人のなのかも。

春めいてぬる窓の空珈琲のむ

松本 信一

評 日常の何気ない動作のひとつ。まが句になっています。

豆撒きて今年の福を願ひけり

水沼 正徳

評 冬から春への季節の変わり目で、立春の前夜、夕暮れに柵の枝に鰯の頭を刺したものを戸口に立てたり、鬼打ちといつて豆を撒きながら福を祈ります。この句は、今年の福とつつましく云っています。それでいいのです。それが積み重ねとなるのです。

心配ごと相談所案内

大洲市社会福祉協議会(本所)	毎週月・水(一般相談) 火・木(法律相談) 金(介護相談) 大洲市総合福祉センター 10時~16時
長 浜 支 所	4月25日(金) 大洲市長浜体育館 13時~16時
肱 川 支 所	4月 4日(金) 大洲市肱川公民館 13時30分~16時30分
河 辺 支 所	4月10日(木) 大洲市河辺老人福祉センター 9時~12時
お問合せ先 本所 Tel 23-0313(代表) ※相談室直通 Tel 23-5629 長浜支所 Tel 52-1111(大洲市役所長浜支所内) 肱川支所 Tel 34-2312 河辺支所 Tel 39-2510	